

滋野地区地域づくり推進のための検討会議 議事録

開催日時：平成23年7月28日（木） 午後7時から午後9時40分

場 所：片羽公民館

出席者：JA信州うえだ滋野店店長 宮下 清行

滋野地区活性化研究委員会会長 吉田 周平

滋野地区青少年育成協議会会長 後藤 富美男

滋野小学校PTA会長 山辺 修

滋野地区分館長会長 阿倍 欣史

民生・児童委員会滋野地区会長 関 茂

滋野保育園保護者会長 若林 賜美

赤岩区長 平井 征治

片羽区長 下條 貞昭

桜井区長 土屋 昌光

滋野地区区長会長（大石区長） 関 勝人

中屋敷区長 若林 常夫

別府区長 内田 仁

原口区長 小河原 實

聖区長 上野 利文

乙女平区長 佐野 恭二

王子平区長 荻原 武男

【事務局】寺島企画課長、小菅補佐、織田

欠席者：交通安全協会滋野支会長 花岡 種男

商工会滋野支会長 小林 今朝人

道の駅駅長 唐澤 光章

中学校PTA支部長会長 山岸 美雪

保健補導員会滋野地区会長 小川原 敬子

老人クラブ地区会長 青木 武人

消防団第2分団長 唐澤 茂幸

1. あいさつ（企画課長）

2. 会議事項

（1）経過説明と今後の推進について（織田）

- ・市の総合計画における「市民と行政の協働のまちづくり」の位置付けを説明

- ・平成 23 年度市の重点施策における「小学校区単位の地域づくり」の位置付けを説明
- ・前回の検討会議の結果、次の事項を認識することができた。
 - ①地域住民主体の地域づくりを実践していくためには、一から地域住民の皆さんと一緒に話し合っていくことの重要性
 - ②持続可能な魅力ある地域を築き上げるには、行政の主導による推進ではなく、地域の皆さんと共に考えていくことの重要性
- ・今後の地域づくりの推進の方法として、まず、滋野地区の皆さんと一緒に地域を見つめ直すことから始め、議論を重ね、滋野地区に住む方自らが地域の将来像を時間をかけて描いていきたいと考えている。

(3) 各団体の活動状況について（情報の共有）

●滋野地区活性化研究委員会

【活動状況】

- ・会長等の役員が毎年代わっていたため、組織体制の見直しを行い、継続性が保てる組織体制を整えることができた。道の駅を立ち上げた諸先輩方の活動を引き継げるよう、日々努力し活動している。
- ・現在、区等の協力をいただき、滋野地区ガイドブックの製作を行っている。来年度中には完成させたいと考えている。
- ・耕作放棄地を有効に活用する対策として、アマワラビの栽培を地区内 5 ヶ所で行っている。それぞれの箇所的成果が出てきており、来年には栽培できる見込みである。また、昨年、くるみの PR 活動として、「くるみ料理コンテスト」を開催した。今年も開催をする予定である。今後は、くるみのオーナー制度等により、放棄された「くるみの木」を管理できるよう検討していきたいと考えている。
- ・その他、「道の駅」の清掃活動参加等の地域ボランティアへの参加、育成会との連携・協力した活動を行っている。

【課題】

- ・区長が忙しすぎるので、活動する委員を別に募集することができればと思っている。継続的に滋野地区を良い地域にしていくための活動を心掛けていきたい。

●滋野地区育成会

【活動状況】

- ・育成会活動は、他の団体の協力をいただきながら活動を実施している。
- ・8月に「さかなつかみ大会」を毎年実施している。
- ・PTAと共催し、夏休み不思議発見（科学を学ぶ）イベントを本年初めて開催する予定である。
- ・三世代交流と地域の史跡を子供達に学んでもらうことを目的に、毎年11月に史跡めぐりを開催している。昨年、滋野地区の史跡めぐりに100人の参加があり、毎年好評をい

ただいている。今年は、和地区を予定したい。

- ・滋野地区ふれあいの集いにおいて子供広場を開催し、好評を得ている。

【課題】

- ・少子化により地域の子供が少なくなっている。また、イベントへの参加などの周知を図ることが大変である。

●滋野小学校PTA

【活動状況】

- ・保護者と先生の間で講演会を実施。その他、PTA作業、資源回収、児童会活動等を行っている。
- ・地域との交流、ふれあい活動の一環として、魚つかみ大会、史跡めぐり、ふれあいの集い等に毎年参加している。今年は、「不思議発見ツアー」を始めて8月に開催する予定であるが、現在のところ100名の応募がある。

●滋野地区分館長会

【活動状況】

- ・公民館活動は、地域住民のふれあい、繋がりを視野に入れた多方面の活動を実践している。
- ・地域住民の中で、助け合いの精神が生まれるための手助けとなる活動を心掛けている。
- ・地域住民の交流の一環として、毎年、三方登山、球技大会、ふれあいの集い等を開催している。また、各区において、歴史文化の伝承、子供達とのふれあいを目的にした活動を実践している。

●滋野保育園保護者会

【活動状況】

- ・保護者会主体の活動は実践していない。保育園行事の夏祭り、運動会等のお手伝いを行っている。
- ・毎年10月に市との行政懇談会を開催している。

【課題】

- ・保護者会役員は毎年交代するため、一年間の行事をこなすことで精一杯であり、継続性のある活動ができない。
- ・保育園が統合されるため、保護者会としても活動の擦り合わせを検討していかなければならないと考えている。

●滋野地区区長会

【活動状況】

- ・従来どおりの事業をこなすことで精一杯である。新しく事業を検討する余裕がない。

【課題】

- ・区長会が地区の地域づくりのリーダーシップを取ることは難しいと感じている。

(4) 地域への思いを語る意見交換

【小菅補佐】

- ・滋野地区への思い、地区の将来像について、皆さんの気持ちをお聞かせいただき、次へのステップを考えていきたい。

【吉田活性化会長】

- ・小学校区単位の組織の構築については、第1回の会議の説明を聞く中で、地方自治法で定められている協議会のイメージを持った。しかし、6月議会を傍聴する中で、地方自治法で定める協議会では無いということが判った。今までの市の説明を聞く中で、予算の配分・人的支援をするから地域課題を解決する組織を創ってくださいというイメージであった。今回は少し方向性（切り口）が変わっていると感じるが、その点をもう少し丁寧に説明したらどうか。私は、地域づくりは地域住民主体で実践していくことが重要であると考えている。

【小菅補佐】

- ・小学校区単位の地域づくりについては、5地区で開催されたまちづくり懇談会等でも説明してきた。市としては、将来的には地域組織が力を付けて地区を運営することができるようになれば、ある程度の予算を地域に配分して、地域で考え、地域で優先順位を決める、そのようなことが出来る組織の構築を目指したいと説明してきた。しかし、「市が地域に一括交付金を配分する」ということだけが先行してしまった。市としての考えは、将来像は先ほど述べたとおりであるが、そのためには、まず、地域の基盤を創ることが重要であると考えている。まずは、地域住民が地域のことを自ら考え、そのためにはどのような組織が必要か自ら考えることが重要である。
- ・小学校区単位の地域づくりを進めるには、地域に住む住民が、こんな地域にしたいという思いが無ければ、行政がいくら計画づくりをしても実現できないと思う。地域づくりに関し、行政が計画を策定して進めるということより、原点に戻り、地域の皆さんと地域を語り、その後、行政として何をすべきか、また、地域としては何をすべきかということの一つ一つ時間をかけて議論していきたい。

【寺島課長】

- ・滋野地区の皆さんが、将来の滋野地区のあるべき姿をどのように考えているのか、皆さんと議論を進める中で、まずは基盤固めから行っていきたい。滋野地区の皆さんの地域の思いをお聞きかせいただきたく、本日お集まりをいただいた。

【小菅補佐】

- ・今までも地域づくりを進めてきたが、「今のままで良いのではないかという意見」「もっとこうしたら地域が良くなるのではないか」という議論をする場がなかったと感じる。前回の会議を通じ、行政の考え方と地域の考え方の違いが判ったこともあり、市としても考え方を少し変えさせていただいた。有識者の意見を聞く中で、「行政がいくら計画しても地域住民に思いがなければ地域づくりは進まない。地域の皆さんの意見を聞いて、

それを行政としてサポートしていくことが大切であり、そうしたことが地域づくりを継続して実践していくことに繋がる。」というご意見もいただいた。

【吉田活性化会長】

- ・ 前回の会議では、地域にはどの位のお金が配分されるのか、人的支援をどのくらいしてもらえるのか、という意見が大半を占めてしまったような気がする。

【関区長会長】

- ・ 話しを聞く中で、前回よりも後退してしまったと感じる面もある。

【阿部分館長会長】

- ・ 滋野地区はモデル地区である。どのような方法で進めるのか、次の地区に引き継ぐ役割があるのではないか。

【小菅補佐】

- ・ モデル地区というより、滋野地区からスタートしたと理解いただきたい。滋野地区の取り組みを他地区で同様に進めていく予定はない。地区ごと地域の実情に合った推進方法を議論し、時間をかけて進めていきたいと考えている。

【阿部分館長会長】

- ・ 前回の会議で出された「行政として検討すべき事項」としてまとめてあるが、行政として見直すことができるのだろうか。このような会議で話し合っても、市として変えていくことができるのか疑問に感じる。

【織田】

- ・ 当然のことながら、出された意見を全て直ちに直視することは言えない。行政として変えていかなければならない点もあるが、行政では気が付かなかった意見も事実としてあり、行政内部で検討しなければならないと考えている。また、今までの説明で、新しく組織を構築することが、小学校区単位の地域づくりのゴールであるかのような認識を持たせてしまったことについては反省すべき点である。

【佐野区長】

- ・ 「地域づくりとは何か?」「小学校区単位の地域づくりとは何か?」「どのような地域にしたいという地域づくりなのか?」「達成するために何かを行うということなのか?」全く理解できない。

【下條区長】

- ・ 地域住民主体の地域づくりの重要性は分かる。今回の計画で理解できないのは、5地区に予算・職員配置をして独立した自治区的なものを構築しようとしているのか。もし、そのような計画であれば、見直すべきである。
- ・ 自分たちの住む区は良く理解しているが、滋野地区全体となると理解に苦しむ点がある。

【佐野区長】

- ・ 小学校区単位ということは、地域の再編成ということだけではないか。

【関区長会長】

- ・30年後、50年後を考えた時に、道州制により東御市はなくなってしまうかもしれない。しかし、市がなくなっても小学校区単位の地域は残るだろうという考え方ではないか。

【佐野区長】

- ・例えば、「2つの小学校区を1つの地区にする」など、もっと大きな地区を創るということでも良いのではないか。
- ・地域づくりとは何か。何をしようとしているのか。どのような形を目指しているのか理解できない。

【寺島課長】

- ・地域づくりとは、そこに住む住民が「住んで良かった」と思える地域を築きあげることではないか。一つの区で取り組むより、二つの区で取り組む方が効率良く進む場合が多々あるのではないかと思う。小学校区には同級生等が多いため、マンパワーが生まれやすい。また、地域づくりを行う上で、規模的にも適していると考えている。

【佐野区長】

- ・「このような地域にしたい。」「このような地域になりたい。」という目的を持って、それに対して「何をやるか」という柱があり、具体的に一つずつ実践するといった計画がなければ駄目ではないか。そのようなものがなければ、何をやったら良いかわからない。

【小菅補佐】

- ・一つの意見としてお聞きしておきますが、前段で説明したとおり、市が全ての計画（しなりお）を作ってしまうことが良いことなのか。地域の皆さんが本当にそれで良いと考えているならば、市として計画を作って御示ししたい。ただ、市としては、こうして地域の意見をお聞きする中で、地域の意見を吸い上げながら進めていきたいと考えている。地域と行政が、はじめから議論をすることは重要であると思う。行政が財政難のおり、地域の要望に全て応えることができなくなっている。限られた財源の中で、如何に知恵を出し合って地域を創っていくかという時代になってきている。小学校区単位の地域づくりの考え方は、区だけで解決できない課題について、地区全体で課題解決に取り組んでいくということである。小学校区単位は、旧町村単位であるため、動きやすいということもある。

【吉田活性化委員長】

- ・地域づくりの切り口はいろいろあると思う。区長任期が一年であると昨年同様の事業をこなすだけである。しかし、区長を続けて勤めたくないというのが本音であると思う。区長の皆さんがどのように感じているのかお聞かせ願いたい。
- ・活性化研究委員会では、皆さんの意見を聞く中で役員任期を複数年とした。その結果、活動に継続性が出てきたと感じている。区長任期を複数年とした方が良いと感じている区長もいるのではないか。

【平井区長】

- ・地域づくりを長期的に考えていくためには、区長は必要ないのではないか。任期一年の区長では何もできない。地域づくりを長期的に捉えて、若い世代の人が継続性を持って取り組んでいかなければならないのではないか。

【吉田活性化委員長】

- ・確かに区長は忙しすぎる。時間を掛けて考えていくなれば、委員をしっかりと選ぶ必要があると思う。

【佐野区長】

- ・長期（継続性）という考えは重要である。例えば、区長期事業計画の策定期間の3年間を責任持って区長職に就くといった考えも必要である。地域づくりについても、3年・5年といった計画を継続させることが重要である。

【下條区長】

- ・区長任期を複数年とした場合、候補者が出てこなくなってしまう。区の運営に継続性を持たせるために、副区長経験者が次期区長に就くなどの工夫も必要である。また、全ての会議に区長が出席するのではなく、副区長に出席してもらうなど、区としての工夫も必要であると思う。

【小河原区長】

- ・区の長期事業計画について、毎年要望しても市が要望に応えてくれないのが現状である。そのような状況の中で、区を超えた地区の要望などを考えることは難しい。
- ・地域づくりについて、地域住民が相談しながら進めるということは分かるが、イメージが湧かない。

【土屋区長】

- ・地域づくりを考えるためには、区長会ではなく、若い世代の考え方が必要である。例えば、このような会議のメンバーに、区から人選した人を入れることを検討したらどうか。
- ・区長の複数年任期については、そのような体制は望ましいとは思いますが、区長を受けてくれる人がいないということが現状であると思う。もう少し市からの業務を整理すべきではないか。
- ・地域づくりについては、ある程度市の方向性を示すべきではないか。その方が議論が進むのではないか。現状では、あまりにも漠然としていると感じる。
- ・滋野地区に一括交付金が配分された場合、どのような分配ができるのか疑問を感じる。現在は、市が交通整理しているからうまくいっている面がある。地域に任せてしまうと混乱が生じるのではないか。

【吉田活性化会長】

- ・区長は市役所の下請け的になっていると感じる。市の担当部署ではささいな依頼かもしれないが、区長は全ての部署から依頼がありたいへんである。だからこそ区長を受ける人がなくなってしまう。そこに問題があるのではないか。区長のやり手が出るために

は、どうしたら良いか考えることが重要である。なぜ区長が忙しいか、考える必要があるのではないか。

【若林区長】

- ・地域力が落ちているということは事実である。各区で地域づくりを考え、どのようにしていくか区内で議論し、区だけで解決できない問題を滋野地区全体でどのように取り組んでもらえるか、そのような体制が地域として重要ではないか。区長が先頭に立たなければならぬが、任期などから見て無理があると思う。区内においても、地域づくりを考える人が集まり議論し、どのような区を創っていきたいか、また、滋野地区をどのように発展させていくか議論することが必要である。地域づくりをどのように実践していくか難しい問題であるが、地域で議論し、地域力を付けていかないと地域がバラバラになってしまう。地域づくりを進めるには困難が伴うが、しかし今やらなければならないことであると思う。区の中で議論し、滋野地区で発展させることができるようになれば、今後の小学校区単位の地域づくりの発展へと繋がると思う。

【阿部分館長会長】

- ・活性化研究委員会が、複数年で継続性を持った取り組みを行っている。そのことから方向性を見出すことができないか。何らかの形で前に進めていかなければならない。検討委員会的な組織も必要になってくるのではないか。

【土屋区長】

- ・継続性を持たせるには、区長会が中心では駄目だろう。本日集まっている方を見ても一年任期の方が多し。若い世代を加え、検討することが必要ではないか。

【宮下店長】

- ・区を代表する区長の意見は必要であるので、区長は検討組織に入るべきである。区長を必要としない時期が来たら、外れてもらえばよい。役職の方も組織の代表であるので、意見を聞くことは重要である。

【下條区長】

- ・小学校区単位の地域づくりの考え方は賛成できる。滋野地区で集まって議論する機会を増やすことが大切である。

【小菅補佐】

- ・地域づくりを手掛けてきた専門家を招いてアドバイスいただく方法もあるが如何か。

【関区長会長】

- ・小学校区単位の地域づくりの考え方は賛成できる。例えば、区長期事業計画において、区で毎年同じものを策定しているが、これを滋野地区全体として方向性を出して市に提案できるようになることが必要ではないか。また、そのような事を考え、連携できる地域を目指すことが必要でないか。

【織田】

- ・今のご意見のとおり、こうした会議で滋野地区の将来像を考え、将来あるべき姿を議論

することが地域づくりへの一歩であると思う。今のご意見は、将来そのような地域を目指したいという想いであると思う。

【宮下店長】

- ・滋野地区には、すばらしい史跡があると思う。(戌立遺跡、塚穴古墳、山浦刀匠、雷電) 地元区が整備を要望しても進んでいかないという現実があるが、これを地域全体の問題として捉えて、地域で意見を交わし、市へ要望することができるような地域になれば地域の活性化へと繋がると思う。

【阿部分館長会長】

- ・体制を整えて、専門家の意見を聞く中で、ある程度の骨格を作り、そこに我々が肉付けをしていくという方法もあるのではないかな。成功例を聞くことも良いのではないかな。

【吉田活性化会長】

- ・成功した事例として、自治会で焼酎を醸造し、その売った利益を地域住民に還元している事例もある。そのことを通じ、コミュニティ意識の向上が図られたようである。

【織田】

- ・お話が出ているとおり、専門家の意見を聞きながら道筋を定めていきたいと思う。

【小河原区長】

- ・原口活性化で行っている「生そば」の販売も15年が経過した。これは、一つの成功例であると思う。活動している人は、地域づくりや地域の活性化といった思いを持っている人であると感じる。地域に新しい組織を立ち上げるためには、新しい考えを持った志の高い人を人選し、中心となっていただくことが地域づくりには大切である。

【下條区長】

- ・若い世代だけに任せるのではなく、年配者も一緒に汗をかくべきではないかな。そうであれば、若い世代を含め、誰もついてこなくなってしまう。

【小菅係長】

- ・専門家を招いてご意見を聞く事を考えます。今回お集まりいただいた皆さんの他、どのような方に加わってもらいますか。

※意見交換を行った結果、若い世代を増やし継続性を持たせるため、次の方を加えることとなった。

- ・消防団副分団長、小学校PTA副会長、生涯学習まちづくり推進協議会推進委員
活性化研究委員会副会長・部会長

【要望事項】

滋野小学校PTA 山辺会長より次のとおり要望があった。

- ・各団体の事業について、活動の連携やマンネリ化した事業の縮減などを検討することもこの会議で行ってほしい。

(5) 区役員任期及び会計年度について（織田）

※意見交換をする予定であったが、時間の都合により趣旨のみ説明

区役員任期及び会計年度は暦年主義（1年～12月）、行政は年度主義（4月～3月）であり、また、区内から選出された役員等も任期が統一されていないため、区を運営するうえで障害が生じているという意見が出ている。今後、区長会を通じてご意見を伺いたいので、滋野地区の区長会においても話題に取り上げていただきたい。

【土屋区長】

自治推進委員会を4月に開催すれば、自然と年度主義に移行されるのではないかと。

【下條区長】

区役員だけの問題でない。他の団体にも影響するので、区の中で十分な話し合いが必要である。

【小菅補佐】

今後、区においての問題点をお聞きする中で整理していきたい。

3. その他

- (1) 口座振替申出書について（織田）
- (2) その他（特になし）

4. 閉会（企画課長）

【まとめ】

小学校区単位の地域づくりについては、滋野地区区長会、5月24日開催の検討会議等で市として優先して取り組む事項を説明してきました。会議を通じて感じたことは、地域の課題を解決するため、新しい組織を構築することが最終目的であるかのような認識を地域に持たせてしまったことは、反省すべき点であったと思います。結果、地区への交付金や職員配置等の意見が多く、本来の目的とかけ離れた検討会議となってしまうました。

今回は、次の事項を念頭に置き、検討会議を開催しました。

- ・小学校区単位の地域づくりの最終目的が組織の構築であるという認識を払拭すること
 - ・地域づくりについて、地域住民自らの思いや将来像を引き出すこと
 - ・行政主導で計画を策定するのではなく、地域住民が主体となって考えること
- 結果、会議の前半は、「市が計画を示すべきではないか」「計画を示さなければ何をし

たらよいか判らない。」等、行政依存型の厳しい意見が出されました。しかし、議論を進める中で、地域住民自らが考える前向きな意見も出されました。

- ・ 困難は伴うが、地域で議論し、地域力を付けていくことが重要である。
- ・ 魅力ある地域を形成するため、専門家によるアドバイスをいただきながら進めるべきである。
- ・ 地域づくりを検討するため、若い世代を入れ、継続性を保つことができる検討組織とすべきである。

次回からは、長野大学 佐藤教授を本検討会議に招き、アドバイスをいただきながら進めることを検討したいと考えています。